

I 学校の概要

アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業

さぬき市立さぬき南中学校

◆生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
4学級 122名	5学級 142名	4学級 127名	2学級 9名	15学級 400名

○教員数

32名

◆学校の特徴

本校は、平成25年4月、大川第一中学校と天王中学校が統合してできた、開校5年目の新しい学校である。開校3年目の平成27年4月には津田中学校と再統合し、校区が広域となったため、約3分の1の生徒がスクールバスで通学している。本校の生徒はまじめで、授業や諸行事、部活動に真剣に取り組むことができおり、多くの部が地区大会で優勝するなど、大きな成果を収めている。しかし、友人関係や家庭環境等に課題があり、自己肯定感が低く、自分に自信が持てない生徒も少なくない。県学習状況調査の質問紙調査の結果からも、主体性の育成や自尊感情の高揚が大きな学校課題の一つとなっている。

そこで本校は、本年度よりアクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業の指定を受け、従来の研究体制を再構築し、話し合い活動を通してなかまと積極的にかわり、主体的に行動できる生徒の育成を目指して実践研究を進めることとした。

II 研究主題等

研究主題

なかまと協働し、主体的に行動できる生徒の育成
～話し合い活動を軸として～

◆研究主題設定の理由

国際化、ICT化、少子高齢化など急速に進む社会の変化の中で、自己実現を図るためには、課題と向き合い、課題を乗り越えて目標を達成しようとしたり、他者と意見を交わし、互いに協力しながら課題解決に当たったりする態度を身に付けることが重要である。本校生徒はまじめで、係や委員の仕事など、自分の役割をきちんと遂行しており、「人の気持ちがわかる人間になりたい」「人の役に立つ人間になりたい」という思いを強く持っている。しかし、自己肯定感が低く、自分に自信を持てないため、自己実現に向かって努力し続けることに困難を感じている生徒も少なくない。

そこで、話し合い活動を様々な場面で設定し、なかまとともに共通の課題を解決し、目標を達成する成功体験を通して自尊感情を高め、何事にも主体的に行動できる生徒の育成を図ることとし、本主題を設定した。

◆研究内容及び方法

(1) 研究の内容

本校生徒が活力を持って取り組んでいる活動である学校行事・生徒会行事（「体育祭」「合唱コンクール」「読み聞かせ（1年）」「職場体験学習（2年）」「修学旅行を中心とした平和学習（3年）」など）を核として、その活動がさらに生徒の主体性や協働性を高められるようにする。そのために、特別活動、道徳、総合的な学習の時間、各教科等の内容や計画を見直し、その中に話し合い活動を取り入れ、アクティブ・ラーニングを強化し、学校行事・生徒会行事との連動を図る。この一連の活動の中で、研究主題の実現に向けて以下の5つの内容で、研究実践を進めることにした。

- ① 「基礎学力向上プラン(仮)」をもとに、学習意欲の向上と基礎学力の定着を図り、アクティブ・ラーニングを通して思考力や表現力の育成を目指す。【チーム「学」】
- ② 各行事に向けた話し合い活動と各学級の課題をもとに学級をよりよくするための話し合い活動の二つ柱に自発的・自治的な学級づくりを目指す。【チーム「繋」】
- ③ 行事と関連させた道徳を実践し、心情面の醸成を目指す。【チーム「心」】
- ④ 生徒の内省や価値づけを促すためのポートフォリオを開発する。【チーム「実」】
- ⑤ 生徒会活動をより生徒中心の活動にするための実践研究をする。【生徒会活動充実部会】

(2) 身に付けたい力「社会人基礎力」

社会を取り巻く環境は、今、大きな変化の波を受けている。このような変化に対応できる社会人が求められており、そのような時代の要請を受け、経済産業省では、これからの職場や社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基盤的能力を「社会人基礎力」として提唱し、その育成の普及を図っている。

「社会人基礎力」は「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つに大きく分けられる。また、その力に加え、公益社団法人経済同友会が「これからの企業・社会がもつめる人材像と大学への期待～個人の資質能力を高め、組織を活かした競争力の向上～」の中で、「困難から逃げずにそれに向き合い、乗り越える力」を求めている。これら4つの力を「社会人基礎力」として捉え、中学生の発達段階に合わせて、本校生徒の身に付けたい力とし、それらを以下のように整理した。

「考え抜く力」	計画力	ものごとに取り組むとき、目的達成のために必要な情報(道具、人の意見、メディアの情報など)を集めることができる。 ものごとに取り組むとき、成果の見直しをもって計画をたてることができる。
	創造力	ものごとに取り組むとき、問題点に気づき、解決策を考えることができる。 ものごとに取り組むとき、これまでのやり方にとらわれず、よりよいものを作ろうとアイデアを出すことができる。
「前に踏み出す力」	主体性	目標を持って努力することができる。 ものごとに率先して取り組むことができる。
	働きかけ力	みんなで決めた目標を達成させるため、なにかまに声をかけ、共に行動ができる。 より良い方法を見つけたり、考えついたりしたときに、なにかまに声をかけ、共に行動ができる。
	実行力	ものごとに取り組むとき、目標達成のために必要なことは時間や労を惜しまず行動することができる。 上手いかわないことがあるとき、資料を調べたり、自分で考えたり、人と話し合っ解決しようとする。
「チームで働く力」	発信力	ものごとに取り組むとき、考えたことや思ったことをわかりやすく伝えることができる。 人と意見が違っても、正しいと思うことは主張できる。
	傾聴力 <small>傾聴力</small>	人の意見を一生懸命に聞くことができる。 意見や考えがちがっても、相手の意見や考えを認めることができる。
	柔軟性	失敗したり、間違ったりしたときは、素直に謝ったり、誤りを認めたりすることができる。 ものごとに取り組むとき、自分の考えだけにとらわれず、人の意見に耳を傾け、よりよい方法を見つけることができる。
	状況把握	ものごとに取り組むとき、協力して目的を達成するために自分がすべき役割がわかる。 ものごとに取り組むとき、自分のことより全体のことを考えて、その場に応じた発信・行動ができる。
	規律性	学級や学校のきまりを守って生活できる。 行動をともにするなかまに嫌な思いをさせないようマナーを守って行動できる。
「困難から逃げずにそれに向き合い乗り越える力」	忍耐力	苦手なことや困難にあっても、あきらめずに最後まで取り組むことができる。
	度胸	多少失敗しても、動じず気持ちを切り替えて活動することができる。

III 研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組

1 (教員質問紙) 普通の授業で生徒の学び合う場を取り入れていますか。

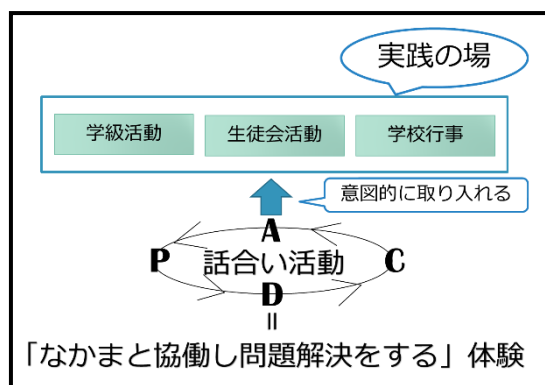
指標 「①よく行っている」のみ



★なかまと協働し問題解決を行う話し合い活動

特別活動（学級活動、生徒会活動、学校行事）に話し合い活動を意図的に取り入れることが本校の取組である。ここで言う意図的とは、学級活動、生徒会活動、学校行事を実践の場と捉え、その実践に向けて、PDCAサイクルの中で話し合いを行うことで、なかまと協働し問題解決を行う体験にする。

このように実践の場を意識した話し合い活動を本校ではアクションミーティングと呼び、そこでの話し合い活動の進め方を以下のように整理し、教員で共通理解をした。



<p>1. 問題意識を持つ</p> <p>○クラスの問題・課題を探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー会 ・班長会 ・委員会 ・議題BOX ・事前アンケート 	<p>3. 原因を探る・対策を練る</p> <p>○班で話し合う内容を明確にし、話し合いをする。</p> <p>《基本》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を設定し、視覚的に時間がわかるようにする。 ・話し合う内容をわかりやすく提示する（板書） <p>《方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会者に事前に話し合いの仕方を確認しておく。 ・司会者に進行の話型を持たせておく ・ホワイトボード、画用紙などグループで書きこめる工夫 ・カードにして仕分ける作業を取り入れる ・付箋を利用して、全員の意見が出る工夫
<p>2. 問題意識の共有</p> <p>○子どもたちが「考えたい」、「それはどうにかしなければならない」と思えるように、テーマに合わせた問題提起を行う。</p> <p>《方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートの結果を見せる ・写真や動画を見せる ・司会者が問題点を語る。 ・ランキング形式、クイズ形式などの工夫 	<p>4. 意見を交流しまとめる（合意形成）</p> <p>○班で出た意見を発表し、意見を交流する。</p> <p>《方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会者のもと全体で、班から出た意見をまとめる。（取捨選択する・絞る・改良する・優先順位をつける） ・班の形のまま移動して、他の班の意見を見る。（印をつける、屋台方式など）
<p style="text-align: center;">話し合い活動</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 20px; text-align: center;"> <p>Action Meeting</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学級A・M ○学級力向上A・M ○たてわりA・M </div>	<p>5. 決定事項の確認、共有</p> <p>○司会者が最終的に決まったことを整理し、発表する。</p> <p>※学級掲示を作る</p>

上記の流れで話し合いを進め、学校行事（体育祭、合唱コンクール）にむけて、たてわりで行うものをたてわりアクションミーティング、学級をよりよくするための話し合い活動を学級力向上アクションミーティング、その他の目的を持って学級で行う話し合い活動を学級アクションミーティングと呼ぶ。

◆指標設定と達成に向けた取組

2 (生徒質問紙) 学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。

指標 「①できている+②どちらかといえはできる」の合計



★思考ツールを活用し、考えを深める工夫

(1) 現職教育職員研修

話し合い活動を進める中で、「たくさんの意見をどのように集約したり、取捨選択したりすること」や「より思考を深めたり、広げたりする」といったことが、本校の実践の大きな課題となっている。そこで、香川大学教育学部教授山本茂喜先生をお招きして「思考ツールを活用した話し合いの工夫」をテーマに、様々な思考ツールやその利点、話し合い活動を行うときの注意点などについて指導、演習をしていただいた。



フィッシュボーンを用いて演習する様子

(2) 学級力向上アクションミーティング

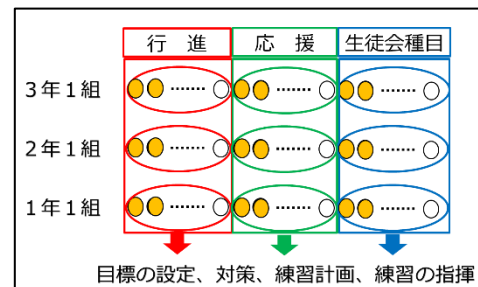
学級の現状と課題を数値的に評価するための学級力アンケートを実施し、それをもとにレーダーチャートを作成する。その結果から、教師と生徒が学級作りの成果と課題を話し合い、これからの学級力向上の取組のアイデア(課題を克服するための対策)を出し合う会議を行う。その話し合いを学級力向上アクションミーティングと呼んでいる。この対策を決める段階で、生活班で話し合い、いくつかの意見が出てくるが、それぞれの意見の良さを認めながら、取り組む対策を絞っていくとき思考ツールを利用して考えさせた。座標軸を利用し、縦軸を「効果の高さ」、横軸を「取組易さ」として、この2つの視点でより優位(座標の右上)に位置づけられるものを実践することにした。生徒たちは自分たちの班の対策を学級の取組として採用されるようにと考える。座標軸を用いたことで、よりよい対策とは何なのか、視点をはっきりさせることができた。また他の班の対策と比較して考え、より優位な対策にするために、考えた対策の問題点に気づいたり、対策を改善したりしようと考えを深めることができた。



座標軸を用いて、対策を考える様子

★異学年集団活動～体育祭たてわりプロジェクト～

体育祭では、右の図のように、各クラスで「行進」を美しくすること、「応援」で盛り上げること、「生徒会種目」で勝利することを目的に3つのグループを作り、グループごとの兄弟学級で、練習計画や対策を考え、自分たちの力で練習を行う。そのため話し合い活動をたてわりアクションミーティングと呼んでいる。そこでの話し合いを通して、1・2年生は、先輩たちが話し合いや練習を行うために、司会や練習の進行をするする姿やこれまでの経験をもとに、よりよい意見を出していく姿に学ぶ。そして、その場だけでなく、自分のクラスでもより主体的に活動するようになっていく。



◆指標設定と達成に向けた取組

3 (生徒質問紙) 授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。

指標 「①できている+②どちらかといえばできる」の合計

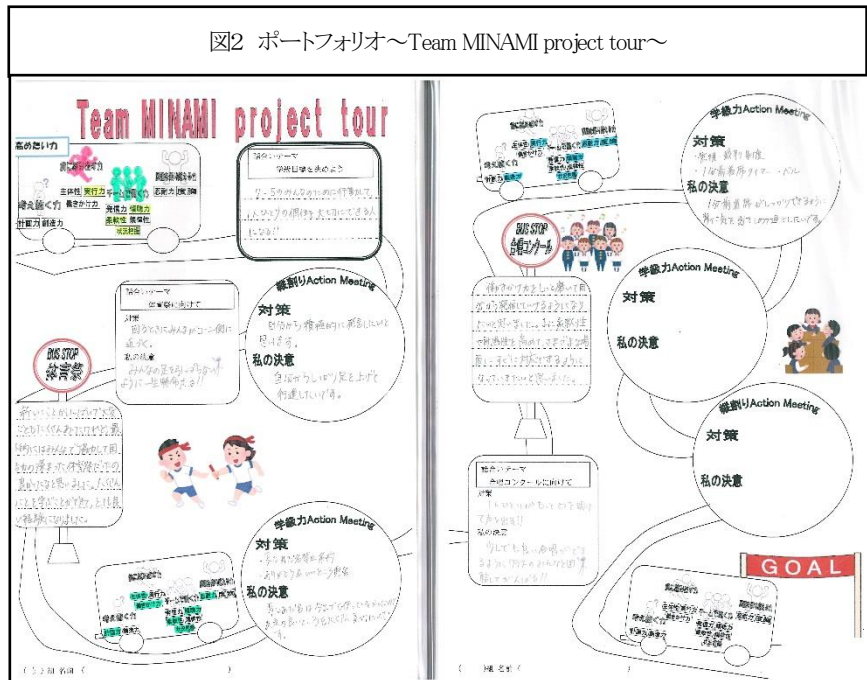


★3年間の成長を見取り、内省を促すポートフォリオ～未来への輝跡 project file～

実践の核となる行事である体育祭と合唱コンクールに向けて行う学級アクションミーティングやたてわりアクションミーティング、また、学級の課題を明確にし、それを改善するための対策を話合って考える学級力向上アクションミーティングを図1のように、年間を通して、計画的に実施している。その中で、決まったことや考えたこと、自分自身の決意などをワークシートに記入し、プロジェクトファイル(未来への輝跡 project file)に綴じていくようにしている。実践を終えた後には、自分自身の取組の成果を社会人基礎力の12の力に照らしながら、振り返り、次の行事や取組にどうかすのかを考えさせ、ワークシートに記入し、それを学級掲示し、その後、プロジェクトファイルに綴じている。また、図2のように、アクションミーティングや各行事でどのような力がついたのかを見開きのページで1年間を通して振り返ることができるようにした。生徒たちは、ワークシートなどを綴じるときに、これまでの取組を自然と振り返り、プロジェクトファイルを楽しそうに眺めている。3年間を通して、この1つのファイルに記録できるようにしたことで、前の行事からの成長や1年前からの成長を実感することができる。また、1年間あるいは3年間を見通して、社会人基礎力の12の力が身に付いたのかどうか、身に付けるために、どのように活動に取り組んでいけばよいのか考えることができる。

図1 アクションミーティング年間計画

	1学期			2学期		3学期	
行事に向けた取組	たてわりアクションミーティング	学級アクションミーティング	体育祭	学級アクションミーティング	合唱コンクール	学級アクションミーティング	兄弟学級への感謝の実践
学級力向上プロジェクト	「1級制を決めよう」	学級力向上アクションミーティング	アクションチャレンジ	学級力向上アクションミーティング	アクションチャレンジ	学級力向上アクションミーティング	アクションチャレンジ



◆指標設定と達成に向けた取組

4 (教員質問紙) 普段の授業で生徒の学び合う場を取り入れていますか。

指標 「①できている+②どちらかといえばできる」の合計



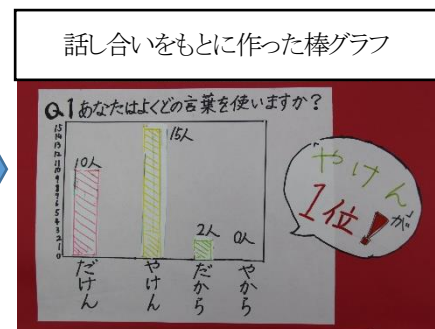
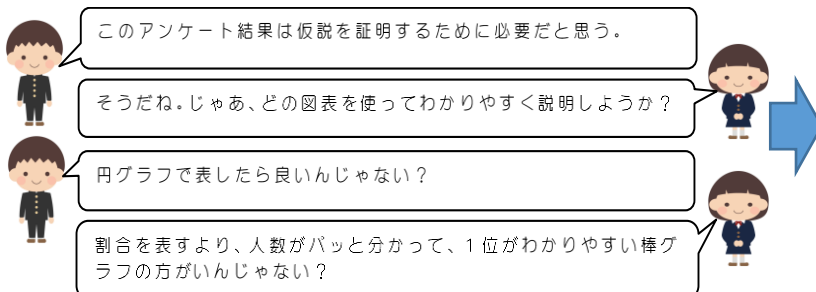
★特別活動でアクションミーティングを行うことでおきた教科での生徒の変容

特別活動を中心に話し合い活動の実践を進める中で、話し合い活動をやりやすくするために、教室で後ろの席からでも見やすいデジタルタイマーを教室に1つずつと大きめのホワイトボード(まなボード)を班に1つずつを購入した。その結果、話し合い活動が特別活動だけでなく各教科へも広がるなど成果がみられた。以下は、教科で見られた生徒の変容に関する教員アンケートの結果である。

- 生徒たちは話し合うことへの抵抗がなくなった。
- 話し合いをすると解決するという意識が生まれ「話し合ってもいいですか?」と言うようになった。
- 班での対抗意識が芽生え、もっといい意見に練り上げようという雰囲気が出た。
- 教師が指示をしなくても役割を決め、スムーズに話し合いができるようになった。
→意識の切り替えが早いので、話し合う時間が長くなり、話し合いが深まった。
- あまり意見が言えない生徒にも「〇〇さんは?」と声かけをし、自然な配慮ができる。
- 聞いている人に承認を得るために、分かりやすい発表を心がけるようになった。
- 話し合いに全員が関わろうとしている。(特別活動で「みんなで」という意識→教科の話し合いでも「みんなが」できている。)

★国語科(1年生)の実践『調べたことを報告しよう レポートにまとめる』(光村図書)

図表を用いた説明文『シカの落ち穂拾い』の学習を通して、説明文に円グラフや棒グラフなどの図表を用いることの良さについて学習した。その発展学習として、本単元で「言葉について」という題材で、班ごとにレポートにまとめる学習を行った。学級ごとに調べる課題を決定し、班ごとに仮説を立てる。その際、分かりやすいレポートにするためにはどんな構成が良いか、どのデータが必要か、どんな表現の仕方(言葉・グラフ・表など)が良いかを班で吟味した。



生徒たちは、既習事項をもとに活発に話し合いを行った。1つの意見や考えだけで満足することなく、もっとわかりやすい説明や図表の使い方はないかなど話し合いをしながら考えていた。また、内容の理解が十分でない生徒も「次は何をしたらいい?」と班員に聞き、みんなで作業に取り組もうという姿勢を感じることができた。

IV 研究の成果と課題

1. 成果

(1) アンケート結果

4月、6月、10月、2月に「笑顔いっぱい」愛し、愛される南中生アンケートを実施している。その内容は、社会人基礎力の12の力について、その力が高まっているかどうか問うものである。4月と10月で「そう思う」と回答した生徒の割合を比較すると、12の項目のうち9つの項目について割合が増加した。特に、大きく増加した力についての、設問は右の通りである。この結果から考えると話し合い活動を学級活動、生徒会活動、学校行事に意図的に取り入れたことの成果が見て取れる。生徒たちが、学校行事（体育祭や合唱コンクール）や学級活動の中で目標を立て、それに向かって計画を立てて、先輩、後輩や級友と協力し実践をする中で、困難や失敗を経験しながら、話し合っって問題解決を行う取組が充実したものだと思われる。

身に付けてほしい力		4月	10月	4月と10月の差
チームで働く力	規律性	58.1%	56.4%	-1.7
	協力	63.9%	69.3%	5.4
	柔軟性	48.7%	58.1%	9.4
	傾聴力	56.6%	52.7%	-3.9
	発信力	24.4%	33.7%	9.4
考え抜く力	状況把握	28.7%	30.6%	1.9
	計画力	23.3%	25.2%	1.9
	創造力	27.7%	34.0%	6.3
前に踏み出す力	計画力	27.0%	34.9%	7.9
	主体性	48.8%	49.5%	0.7
	働きかけ力	25.2%	32.7%	7.5
困難を乗り越える力	実行力	39.1%	32.4%	-6.7
	忍耐力	37.2%	44.4%	7.2
度胸	度胸	34.2%	37.5%	3.3

柔軟性	失敗したり、間違ったりしたときは、素直に謝ったり、誤りを認めたりすることができる。
発信力	人と意見が違ってても、正しいと思うことは主張できる。
計画力	自分の活動を振り返り、修正点を見つけて次にいかすことができる。
働きかけ力	みんなで決めた目標を達成させるため、なにかに声をかけることができる。
忍耐力	苦手なことでもあきらめずに最後まで取り組むことができる。

(2) 「主体」と「協働」の力

学習指導要領には、特別活動の課題として、「各活動・学校行事において身に付けるべき資質・能力は何なのか、どのような学習過程を経ることにより資質・能力の向上につなげるのかということが意識されないまま指導が行われてきた。」とある。本校の取組みに一定の成果が見られたのは、身に付けさせたい力を大きくは「主体」と「協働」に絞り、それを教師集団だけでなく生徒も共に共通理解し、学校経営を行ってきた結果だと考える。



2. 課題

「主体的で対話的な深い学び」を更に充実させるために

学校行事を核として、話し合い活動を意図的に取り入れたこと

で、生徒たちは話し合う活動が習慣化し、そのことは、各教科にも良い影響を与え、様々な教科で話し合い活動は行われた。来年度に向けての課題は、特別活動における話し合い活動だけではなく、各教科での話し合い活動の実践を広げ、各教科と特別活動の往還関係を意識し取り組んでいくことである。また、今年度は、学級力向上アクションミーティングで対策を話し合う中で、折り合いをつけたり、練りあったりする活動が十分に行うことができなかつた。「深い学び」につながる実践として、まずは、その部分を来年度の改善の中心において、教職員全員で授業研究を進めていきたい。